

平和の鳥居、本殿など

芦ノ湖が箱根の自然のシンボルであるなら、箱根神社はその精神先的中心です。伝説によると、この神道の神社は万巻上人によって西暦 757 年に建立されました。万巻上人は修行の道に身を捧げた僧侶で、古代からこの地域で崇められてきた近くの山々の神々のためにシンプルな湖畔の聖地を建てたと言われていました。神社の影響力は、源頼朝（1147-1199）が政権を有する平家に対する最初の戦いで敗れてここへ避難しようとした後の鎌倉時代（1185-1333）に大きくなりました。頼朝は最終的に平家を滅ぼし、鎌倉幕府を作り、幕府は 150 年近く続くことになりました。

箱根神社が困った時に避難先を提供してくれたことを忘れられなかった頼朝とその後継ぎたちは、定期的に関所にお参りし続け、家臣たちにもこの先例に従うよう促しました。1603 年に江戸時代が幕を開ける頃になると、神社の権力は著しく大きくなり、新しい徳川幕府が神社の境内のかなり近くを通る東海道沿いに関所を設けようとした時には、僧侶たちは実質的にこの計画に抵抗することができました。結局関所は道路をかなり進んだ場所に設置されました。神社

の権力に対する共通認識は、公式な政策変更により、江戸（現在の東京）と京都の間を東海道に沿って旅する人々が1晩だけ道から外れることが可能となり、道中神社に参拝することが可能になった江戸時代末期（18世紀末から1867年）まで、根強く残りました。

今日、神社の境内には注目すべき構造物がいくつかあります。中でも特に、火事で破壊された後の1936年に再建された本堂や、芦ノ湖の守護神として知られる9つの頭を持った龍を祀った九頭龍神社の新宮、連合国軍の日本進駐を終わらせたサンフランシスコ講和条約を記念して1952年に湖畔に建てられた赤く輝く平和の鳥居などがそうです。